

公演イベントにおける 事業継続のための新型コロナウイルス感染拡大予防対策例

新型コロナウイルスに感染しないようにイベントを実施するため、イベント主催者が実施するサービス等の場面ごとに発生するおそれがある感染リスクへの対策例を整理しました。皆さんのイベントや利用される施設の状況等にあわせて実践してください。
※ この対策例は最新の情報に基づき適宜更新していきます。

LINEによるとっとり新型コロナ対策安心登録システム

このシステムにより発行されたQRコードを施設に設置することで、QRコードを読み込んだ利用者のLINEアカウントと利用日時が県に登録されます。保健所の調査で感染者が施設等を利用して感染拡大の可能性があると判断した場合、県から同じ時間帯に登録した利用者にメッセージ（施設名等は記載しません）を送ります。**施設等へのQRコードの掲示と来場者への積極的な登録案内をよろしくお願いします。**



クラスター対策条例を制定しました（令和2年9月1日施行）

集団感染(クラスター)を起こさないようにガイドラインに沿った感染予防策を実施しましょう。万が一、施設等でクラスターが発生した場合は、**直ちに施設等の使用を停止し、保健所の指導に従って消毒等を行ってください。**

感染拡大防止のため、県は必要に応じて施設名等を公表します。また、事業者が自主的に適切な措置を講じないときは、県は施設等の使用停止の勧告を行います。

1000人を超えるイベントは、県相談窓口にご相談ください

- ・ **全国的な集客を伴うイベント、参加者が1000人を超えるイベント又は会場定員の50%を超える集客のイベント**を開催する場合には「**新型コロナウイルス克服くらしの安心相談・応援窓口**」に申出が必要です。
- ・ **客席の混雑度だけでなく、来場、入場、物販、トイレ、退場、帰宅時等の混雑対策が適切に行われるよう、事前の相談時に県が助言を行います。**

問合わせ先
新型コロナウイルス克服くらしの
安心相談・応援窓口

東部	県庁くらしの安心推進課	☎0857-26-7982
中部	中部総合事務所生活環境局	☎0858-23-3982
西部	西部ワンストップセンター	☎0859-31-9637

正しい手洗いの方法



正しいマスクの着用



新型コロナ克服3カ条

1 人と人 間が愛だ

人と人が約2m離れば、飛沫感染防止で安心！



2 三つもの 密だとミスだ

三つの密（密閉・密集・密接）を回避！



3 幸せは 予防で呼ぼう

こまめな手洗いや咳エチケットで、新型コロナウイルス感染症を予防！



消毒液の種類と用途

主な用途

石けん・ハンドソープによる手洗い 手指

アルコール（60%以上95%以下） 手指

物品

塩素系漂白剤等 物品
(次亜塩素酸ナトリウム 0.05%以上)

※ 以下を参考に、市販の塩素系漂白剤（主成分が次亜塩素酸ナトリウムであるもの）を薄めてください。
また、商品によって濃度が異なりますので、商品パッケージやメーカーのHPの説明をご確認ください。

- ①ハイター、キッチンハイター（花王）
水1Lに25mL（商品附属のキャップ1杯）
- ②ブリーチ、キッチンブリーチ（ミツエィ）
水1Lに10mL（商品附属のキャップ1/2杯）

※ 樹脂製の手袋をつけて取扱いましょう。皮膚についた場合、ただちに水で洗い流しましょう。

※ 腐食性があるので、金属へ使用した後は必ず水拭きしましょう。

鳥取県版新型コロナ警報

感染拡大リスクの評価基準に照らし合わせて誰もがわかりやすい注意喚起をすることで、新型コロナウイルス対策を効果的に展開していくとともに、社会活動の持続化・安定化を図ります。

区分	注意報	警報	特別警報	
指標	①新規陽性患者数	東部 1人/週、中部 1人/週、西部 1人/週	東部 3人/週、中部 2人/週、西部 3人/週	
	②現時点確保病床稼働率	—	圏域ごとに稼働率 15%超	圏域ごとに稼働率 50%超
運用	発令	圏域単位で発令		
	発令期間	始期:①の基準に達した日 終期:①の基準を下回った日	始期:①②がいずれも基準に達した日 終期:①②がいずれかが基準を下回った日	
	解除	①の基準を下回った日の翌日	①②のいずれかが基準を下回った日の翌日 (警報、注意報の要件を満たしている場合はそちらに移行)	
活動制限	外出・イベント・施設	○クラスター発生施設に関係する箇所、3密な場所 ○状況に応じて不要不急の外出自粛を要請	○生活維持に必要なものを除く外出自粛を要請	
	学校	○感染者の学校休業の検討が基本	○市中感染の拡がり状況や必要に応じて該当の圏域又は全県での教育活動の制限、分散登校、休業等	
医療強化	保健所	○疫学調査応援職員を派遣	○疫学調査応援職員を派遣 ○相談センター応援職員を派遣 等	
	医療・福祉	○施設内感染対策の確認 ○病床確保の準備 等	○施設内感染対策の徹底 ○必要物資の送付、空床確保 等	
要請の法的根拠等	協力依頼 等	県クラスター対策条例、特措法第24条第9項による要請 等		
		県クラスター対策条例による要請、特措法第45条も発動 等		

公演イベントの場面ごとの感染拡大予防対策

※全国的な集客を伴うイベント、参加者が1000人を超えるイベント又は会場定員の50%を超える集客のイベントを行う場合、イベント主催者は開催1ヶ月前までに「新型コロナウイルス感染予防に係るイベント開催申出書」を新型コロナ克服くらしの安心相談・応援窓口へ提出しましょう。

→県はこのガイドラインが守られるよう、来場・入場・物販・トイレ・退場・帰宅時等の混雑対策について適切に行われるよう助言します。

1 準備

(1) 企画

- ・ 屋内イベントの場合は、換気扇等の換気設備があったり、開放可能な扉や窓が複数箇所にある会場を選びましょう。
- ・ お客様が声援や歓声等の声を出すイベントの場合は、密集を避けるため会場定員の50%以下の集客とすることがあるため、集客規模の2倍以上の収容能力がある会場を選びましょう。(5人以内のグループであれば、グループ内のお客様同士の人と人の距離(フィジカルディスタンス)の確保は不要です)
- ・ これまでの同様の出演者による開催実績や類似イベント等により、お客様が声援や歓声等の声を出さないとわかるイベント(クラシックコンサートや演劇等、飲食を伴うが発声のないものも含む)の場合は、会場定員の50%を超える集客が可能です。ただし、参加予定者数が5000人以上の場合は、集客規模の2倍以上の会場を選びましょう。

※ただし、県が確保するコロナ対策の病床占有率が25%以上の場合は、全ての会場で定員の50%以内とする必要があります。現在の状態は、県が公表する「新型コロナウイルス感染症対策分科会が提言した「ステージ移行を検知する6指標」と鳥取県の現状」をご確認ください。

<https://www.pref.tottori.lg.jp/item/1244905.htm#itemid1244905>

- ▶ 客席がないなど定員の設定がない施設の場合は、フィジカルディスタンスを確保できる広さの会場を選びましょう。
- ▶ 仮設テント内等でお客様が声を出すイベントの場合は、収容能力の半分までの集客に留めましょう。
- ・ 駐車場や最寄り駅から会場までの道路でお客様が密集状態にならないよう、会場までの複数の経路及び移動手段を設定しましょう。
 - ▶ 混雑が生じて近隣住民の迷惑にならないよう、お客様を誘導するスタッフを選定しましょう。
 - ▶ シャトルバス等を運行する場合は、バス内やバス停付近の混雑にも注意しましょう。
 - ▶ お客様が公共交通機関を利用することが見込まれる場合は、車両の増結、臨時便の運行等、混雑対策について検討・調整しましょう。
- ・ 機材の搬入や出演者の動線とお客様の動線は可能な限り分離しましょう。
 - ▶ 屋内イベントの場合は、会場裏口等を活用しましょう。
 - ▶ 屋外イベントの場合は、スタッフ及び出演者専用の動線を確保できる位置にステージ等を配置しましょう。
 - ▶ やむを得ず出演者が客席の間を入退場する場合は、ハイタッチ等によるお客様と出演者が密接となる演出は控えましょう。
- ・ 屋内イベントの場合は、会場管理者と相談して、イベント集客数や会場の換気性能に応じて、イベント中の定期的な会場換気のための休憩回数や休憩時間を予め設定しましょう。
- ・ お客様の氏名や緊急連絡先を把握できるチケットシステムや電子決済を活用しましょう。
 - ▶ 参加無料や当日券を販売する場合もお客様情報の収集に努めましょう。
 - ▶ 全国的な集客を伴うイベント、1000人を超える大規模イベントや定員の50%以上の入場としているイベントの場合は、来場者の連絡先を確実に把握する手段を導入しましょう。
 - ▶ 接触確認アプリ(COCoA)のインストール及び「とっとり新型コロナ対策安心登録システム」の利用について、チラシ等で案内しましょう。
- ・ 発熱や咳、咽頭痛等の症状があるお客様が来場を控えられる場合の払い戻し等の措置を予め規定すると

ともに、急なキャンセルにも対応できることをチラシ等で案内しましょう。

▶感染状況によっては入場制限等を行う場合があることについて、お客様に事前に周知しましょう。

- ・開催に当たっては、ガイドラインに沿った対応を行う旨を、HP・チラシ等で公表しましょう。
- ・全国的な集客を伴うイベント、1000人を超える大規模イベント又は会場定員の50%以上の入場としているイベントを開催する場合は、新型コロナ克服くらしの安心相談・応援窓口へ事前相談しましょう。

(2) 会場設営

- ・接触確認アプリ（COCOA）の起動を呼びかける掲示物や、「とっとり新型コロナ対策安心登録システム」の登録を勧めるQRコードを会場内に掲示しましょう。
 - ▶受付の待ち時間に登録できるよう入場口近くに掲示したり、開演前に登録できるようロビーに掲示したり、利用機会を増やすようにしましょう。
- ・お客様が声援や歓声等の声を出さないとわかるイベントで会場定員の50%を超える集客を行う場合は、歓声等を控えることを掲示するなどして呼びかけましょう。
- ・設営からイベント終了までに十分な時間を設定し、全体を通じて密な空間の防止に努めましょう。
 - ▶作業ごとにスタッフを選定することも有効です。
- ・観覧スペースに客席を設ける場合、フィジカルディスタンス（お客様が声援や歓声等の声を出すイベントはグループ間で1席）を確保できる配席にしましょう。客席を設けない場合は、フィジカルディスタンス（お客様が声援や歓声等の声を出すイベントはグループ間で最低1m）を確保できるよう床にテープを貼る等で目安を示しましょう。
 - ▶座席が固定されている会場を使用する場合は使用できない座席をお客様にわかりやすく表示しましょう。
 - ▶目安が示せない場合は、お客様同士でフィジカルディスタンスをとるよう呼びかけたり、掲示を行いましょ。
- ・開場に備えて会場の扉や窓を開けるなど施設全体の十分な換気をしましょう。
 - ▶空気を入れ替えることが重要です。換気扇や扇風機なども活用しましょう。
 - ▶飲食を伴うものの発声がないものとして定員の50%以上の入場とするイベントの場合は、二酸化炭素濃度測定機器等で二酸化炭素濃度が1000ppm以下であることや、機械換気設備によって換気量30m³/時/人が確保されているか確認しましょう。
- ・出演者が声を発するイベントの場合、ステージと観覧スペースの間にフィジカルディスタンス（最低2m）を確保できる空間を設けたり、アクリル板や透明ビニールカーテンで遮蔽しましょう。
 - ▶定位置でのみ声を発する場合は出演者の前だけの遮蔽も有効です。また、着席により定位置で観覧する場合はお客様の前だけの遮蔽も有効です。
 - ▶客席より高い位置にステージを設ける場合は、より十分な距離を確保しましょう。
- ・出演者が声を発するイベントの場合、出演者同士のフィジカルディスタンスを確保できる空間を設けたり、アクリル板や透明ビニールカーテンで遮蔽しましょう。
 - ▶演劇等、出演者が移動する場合も、演出を工夫するなど、できる限りの対策を行いましょ。
- ・お客様が会場内や会場周辺で密集しないよう、行列が想定される場所にはフィジカルディスタンスを確保できるよう床にテープを貼る等で目安を示したり距離をとっていただくよう掲示をしましょう。
 - ▶会場入口、トイレ、ロッカー、物販ブース、交通機関の乗降者場所等、混雑が想定される場所の対策を行いましょ。
 - ▶立ち位置の目安が示せない場合は、お客様同士でフィジカルディスタンスをとるよう呼びかけたり、掲示を行いましょ。
 - ▶トイレの混雑対策として来場前に用便を済ますように事前に呼びかけたり、掲示を行いましょ。
 - ▶屋外イベントの場合は、トイレの数以上の手洗い設備も準備しましょう。
 - ▶ロッカーの使用については、予約制も取り入れましょ。
 - ▶全国的・広域的なお祭り、野外フェス等の場合は、お客様が密集しないための誘導スタッフを配置し、適切に誘導するとともに誘導スタッフからの情報収集とお客様への情報発信を行いましょ。
- ・トイレのドアノブ、ロッカー等の多くのお客様が触れる部分は入念に拭き取り清掃・消毒しましょう。

- ・会場内の洋式トイレでは蓋を閉めて汚物を流すよう掲示を行いましょ。
- ・会場内トイレのハンドドライヤーの使用は控え、ペーパータオルを設置しましょ。
- ・スタッフ及び出演者はお客様用のトイレの使用を控えましょ。
 - ▶お客様とトイレを共有する場合は、これまで以上に手洗いの励行を呼びかけましょ。

(3) その他

- ・スタッフ及び出演者に出勤前に体温を測定させ、発熱や咳、咽頭痛等の症状があるスタッフ及び出演者は自宅待機させましょ。
 - ▶体温測定は必須ではありませんが、体調不良の方を確実に把握しましょ。
- ・感染したスタッフ及び出演者や濃厚接触者と判断されたスタッフ及び出演者の就業は禁止しましょ。
- ・スタッフ及び出演者の控え室等では、使い捨ての紙皿やコップを使用しましょ。
- ・スタッフ及び出演者やその家族が過度な心配や恐怖心を抱かないよう、また風評被害や誤解などを受けないよう、現状を的確にスタッフや出演者に伝えましょ。
- ・アルバイト採用者、スタッフ及び出演者などのイベント関係者の緊急連絡先を把握しましょ。
 - ▶イベント関係者に感染が疑われる場合には、保健所等の聞き取りに協力しましょ。

2 入場（開場）

- ・チケット確認をするスタッフはマスクを着用するなど咳エチケットを実践するとともに、直接の対面を避けるためにアクリル板や透明ビニールカーテンで遮蔽しましょ。
 - ▶お客様自身が切ったチケットの半券をスタッフが確認する方法も検討しましょ。
- ・会場出入口でお客様が密集しないよう、間隔をあけて並んでいただいたり、チケット番号等により入場できる時間を設けるなどの対応をしましょ。
 - ▶開場から開演までの時間を長めにとって、入場の混雑を緩和しましょ。
- ・発熱や咳、咽頭痛等の症状のあるお客様には来場いただかないよう呼びかけたり、掲示を行いましょ。
 - ▶非接触型体温計による体温測定も有効です。
 - ▶全国的な集客を伴うイベント、1000人を超える大規模イベントや定員の50%以上の入場としているイベントの場合は、非接触型体温計等による体温測定を行いましょ。
- ・お客様に、入場時に手指の洗浄や消毒、マスクの常時着用を呼びかけたり掲示を行いましょ。特に定員の50%以上の入場としているイベントでは、飲食可能エリア以外でのマスクの常時着用について、スタッフが個別に促しましょ。
 - ▶アルコール消毒だけでも有効なので会場入口や手洗い設備付近にアルコールを設置しましょ。
 - ▶マスクを持っていないお客様にはマスクを配布しましょ。
- ・お客様に、パンフレット等を手渡して配布することを避けましょ。
- ・会場内外でお客様が集まって騒ぐことのないよう、呼びかけたり掲示を行いましょ。
- ・お客様に、会場内外で大声を発したり、過度な飲酒は控えていただくよう呼びかけましょ。特に大規模なイベントやお客様が声を出さないことを前提としたイベントの場合は、スタッフが個別に促しましょ。
- ・お客様に、接触確認アプリ（COCOA）の利用及び「とっとり新型コロナ対策安心登録システム」の登録を、入口等にQRコードを掲示して推奨しましょ。
 - ▶全国的な集客を伴うイベント、1000人を超える大規模イベントや定員の50%以上の入場としているイベントの場合は、事前登録や入場時の記録により、来場者の連絡先を確実に把握しましょ。
- ・お客様がロッカー付近で密集しないよう、テープによる目安等に従ってフィジカルディスタンスをとるよう呼びかけたり、掲示を行いましょ。
- ・屋内イベントの場合は、お客様が会場に入場した後も扉や窓を開けるなど、イベント開始直前まで会場全体の換気をしましょ。
 - ▶空気を入れ替えることが重要です。換気扇や扇風機なども活用しましょ。
- ・想定した集客数を超える入場にならないよう、入場制限も実施しましょ。

3 物販（グッズを販売するなど該当する場合）

- ・物販（食品提供を含む）を伴う場合は、「販売促進イベントにおける新型コロナウイルス感染拡大予防対策例」を参考にして、密閉、密集、密接の感染リスクを減らしましょう。
- ・定員の50%以上の入場としているイベントの場合は、飲食用に感染防止対策を行ったエリア以外での飲食は原則禁止しましょう。
 - ▶ イベント中にお客様の発声がなく、飲食時以外のマスク着用、会話が想定される場合の飲食禁止、十分な換気、連絡先の把握、食事時間の短縮の対応がされている場合は、食事は可能です。

4 公演中

- ・屋内イベントの場合は、換気扇を起動し、常時可能な限り会場を換気しましょう。
- ・接触（モッシュやハイタッチ）や声援（コール&レスポンス）等の密集・密接を惹起する演出は控えましょう。
 - ▶ 出演者がお客様と直接触れ合うような演出（お客様をステージに上げてサインを手渡しする、ステージを降りてお客様と握手する）も控えましょう。
- ・お客様が声援や歓声を発しない前提で、定員の50%以上の入場としているイベントにおいては、声援や大声を出しているお客様にそのような行為を慎むよう注意しましょう。
 - ▶ 歓声や声援を許容しているイベントであっても、過度な大声を出したりや鳴り物を使用したりする方については、個別に注意しましょう。
- ・屋内イベントの場合は、休憩時間に扉や窓を開けるなど、定期的に会場全体の換気をしましょう。
 - ▶ 空気を入れ替えることが重要です。換気扇や扇風機なども活用しましょう。
 - ▶ 夏場はエアコンの温度をできるだけ低く設定するなど、熱中症にも気を付けましょう。

5 退場（閉場）

- ・会場出入口や施設出入口でお客様が密集しないよう、チケット番号等による規制退場を誘導しましょう。
 - ▶ 退場する際もお客様同士で間隔をあけていただくよう呼びかけましょう。
- ・会場内外でお客様が集まって騒ぐことのないよう、呼びかけたり掲示を行いましょう。
- ・会場を出た後は、駐車場や会場から最寄り駅までの道路でお客様が密集状態にならないよう、様々な移動手段を設定して速やかな帰宅を呼びかけましょう。
 - ▶ 混雑が生じて近隣住民の迷惑にならないよう、スタッフがお客様を誘導しましょう。
 - ▶ シャトルバス等を運行する場合は、バス内やバス停付近の混雑にも注意しましょう。
 - ▶ 公共交通機関の利用に際しても、分散して利用するよう呼びかけましょう。

6 閉場後（撤収）

- ・閉場から撤収までに十分な時間を設定し、全体を通じて密な空間の防止に努めましょう。
 - ▶ 作業ごとにスタッフを選定することも有効です。
- ・ゴミは蓋つきのごみ箱に入れて密閉し、ゴミ出しを行う場合は、マスクや手袋を着用しましょう。マスクや手袋を外した後は必ず手を洗いましょう。
- ・連続公演の場合は、明日の公演に備えて扉や窓を開けるなど会場全体や控え室等の十分な換気をしましょう。
 - ▶ 空気を入れ替えることが重要です。換気扇、扇風機なども活用しましょう。
- ・連続公演の場合は、会場や出演者の控え室等の清掃を徹底し、トイレのドアノブ、ロッカー等の多くのお客様が触れる部分は入念に拭き取り清掃・消毒しましょう。
- ・連続公演の場合は、スタッフのユニフォームや衣装はこまめに洗濯しましょう。